

令和7年度愛知県立西春高等学校学校評価

本年度の重点目標	1 主体性を育む 2 キャリア形成を支援する 3 自己肯定感を高める 4 教職員はメリハリのある勤務を心がける		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務 (総務部)	①	防災減災体制の整備と充実 ・防災対策を強化する。 ・防災委員会の充実と生徒の防災減災意識の高揚を図る。	・従来行っている地震火災避難訓練の内容を見直し、より実践的な防災訓練が実施できるようにする。 ・地震防災マニュアルの見直しを図り、より生徒職員の安全を守るものにする。 ・防災委員会を中心として、生徒の意見を避難訓練等の行事に反映させ、防災減災意識の高揚に努める。
	②	魅力ある学校像の発信 ・学校説明会を充実させる。 ・より充実した広報体制を確立する。	・学校説明会で生徒を活用する場面を増やし、より生徒と参加者が関われるものにする。 ・学校案内やチラシの紙面構成や写真を精選し、より本校の魅力が伝わるものにする。
学習指導 (教務部)	①	主体性を育む授業実施と評価法の研究 ・各教科が探究的な授業を実践し、その効果や評価方法を研究する。	・昨年度から継続して、「主体的・対話的で深い学びを実現するための探究的な授業づくりに関する研究」の研究協力校として、県総合教育センターと協調しながら主体性を育むための授業研究を行う。昨年度以上に授業実践をより多く行い、効果的なより良い授業を模索する。また、生徒の主体性を評価する方法についても検討を重ねる。
	②	授業の創意工夫と研究授業期間の充実 ・研究授業期間の内容を見直し、主体的、対話的な授業方法を校内で共有する。	・昨年度から継続して、より活発に教員間で情報交換ができるよう、教科を超えた授業見学を推奨する。また、各教科で実際に探究的な授業の実践を働きかけ、校内でその手法を共有する。
生徒指導 (生徒指導部)	①	社会規範の確立といじめの防止 ・法令の遵守はもとより、身近な交通マナーやモラルを身につけさせ、公共性や社会性の拡充を図る。 ・学校生活のあらゆる場面で、道徳教育を実施することで、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	・交通マナーに関する地域の方からの指摘が多いことから、特に危険な行為について生徒自身に直接注意をして下さった方への対応を啓発する。 ・いじめに関しては、面接週間で担任が生徒の困りごとを把握し対応するだけでなく、定期的に「いじめに関するアンケート」を記名式で実施することにより、生徒の困りごとに対して早期に対応していることを受けて更に、日常での呼びかけも含め未然防止に務める。
	②	学校生活の充実と主権者に向けての準備 ・在学中に主権者になる自覚を持たせるため、全校生徒が安心・安全な学校生活を送れるような校則の見直しを教員だけでなく、生徒を中心にPTAにも協力を仰ぎながら取り組む。	・新制服制定や行事でのスマートフォン使用など、生徒と意見交換しながら学校運営を行う。実際に運用して特に課題などを来年度に向けて、再度議論する。
進路指導 (進路指導部)	①	学力向上を目指す学習指導・自ら考え夢を実現する進路指導の充実 ・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスや進路研究を実施する ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導を充実させる。 ・基礎・基礎テストを通じた基礎力の定着と学習習慣を確立する。	・大学合格だけが目的にならないよう、大学になぜ進学するのか、何をどのように学ぶのかなど、キャリア教育を踏まえて進路を自身の問題として捉えさせられるようなガイダンスや進路研究の在り方を検討する。 ・入試問題や各種模試、学年の状況を分析し、授業や補習等に活かしていく。 ・模試や基礎・基礎テストなど、結果だけに捉われないこと、先を見据えた学習に取り組むよう指導する。
	②	多様化する大学入試への対応 ・生徒・保護者等に対して適切な情報を発信する。 ・最新の情報を正確に把握する。	・生徒対象進路ガイダンスや受験説明会、保護者等対象の説明会が充実したものとなるよう、内容や実施方法等を検討する。 ・教員向けの大学説明会等に積極的に参加し、情報収集に努める。
保健厚生 (保健厚生部)	①	教育相談の充実 ・全職員で生徒の様子を観察していただき、生徒の心身の健康状態の悪化を防ぐべく情報を関係職員で共有し早めの対策を講じる。	・担任・部顧問・家庭との連絡を密にし、SC、名古屋市や北名古屋市の若者支援機関等の外部との連携も利用して生徒の支援に努める。
	②	環境美化活動の充実 ・生徒や教員の清掃活動の負担を軽減しつつ生徒の美化意識を高める。 ・環境負荷の小さいごみの出し方について生徒に考えさせる。 ・西春祭での美化活動を美化委員会で取り組む。	・美化委員会の活動を通して、清掃道具の整備を行っていく。
生徒会活動部 (特別活動部)	①	学校行事の充実 ・生徒が主体的に取り組むことができるように支援する。達成感と充実感を得られるような学校行事となるように工夫する。	・行事委員の活動を活発にし、主体的に行動できるよう支援する。特に夏期に行われる学校行事については、熱中症防止を重点に置いた企画、運営を目指す。
	②	生徒会活動の充実 ・生徒議会の効率的な運営と各委員会との連携を充実させる。	・各委員会からの意見を生徒会役員において集約し、学校生活全般の改善を生徒議会で検討する。生徒の主体的な行動、提案を支援する。
図書情報教育 (図書情報部)	①	読書活動の推進 ・委員会活動などを通して読書に親しみを持てるような啓発活動を行う。	・「開かれた図書室」を目指し、開館時間・日数を増やしたり、本の魅力的な紹介をしたりする。配架10年以上を超えた書籍については除籍を検討する。
	②	ICTの利用の推進 ・行事や学習面でICT(ロイノート、Teamsなど)の効果的な活用を図る。 ・ICTの利用による校務効率化を図る。	・ICTガイダンスをYouTubeやパワーポイントなどを利用して発信し、理解を深める。 ・ロイノートなどの研修会を校内外を問わず、積極的に活用する。
学年指導 (第3学年)	①	社会を生き抜く力・主体性の育成 ・今年度成人になることを自覚させ、主体的で責任感のある行動力を育成できるよう働きかける。	・社会を生き抜くために、自分の意思で決断することの大切さを様々な場面で伝える。 ・教員や保護者など周囲の大人が答えを与えずに自分で考え、考え、自分自身で決断して行動できるようにする。
	②	目標の実現に向けての指導の充実 ・丁寧な進路指導を心掛け、主体的な選択を促す環境を整える。	・授業や補習等を活用し、多方面から生徒の学力向上をサポートする。 ・きめ細やかな面談を心掛けて、進路について主体的に選択できるよう促す。 ・結果だけで判断するのではなく、努力の過程を重視して前進できるよう支援する。
学年指導 (第2学年)	①	主体的で責任感のある行動力育成 ・様々な場で、自ら考え積極的に行動する勇気を養う。	・中核学年として、学校行事への積極的な参加を促す。 ・自身だけでなく、クラス、学年、学校全体、さらには地域のことを意識して行動できるよう促す。 ・一人一人が主体的に進路希望を持てるよう支援する。
	②	結果ではなく、過程を重視できる力の育成 ・2年後を想像し、将来のために今できる事を全力で取り組むよう働きかける。	・自身の将来について、さまざまな可能性を視野に入れ、幅広い選択肢を持たせる。 ・高い志を持たせ、そのためには今、自分がどうあるべきか考え行動できるよう働きかける。
学年指導 (第1学年)	①	規則正しい生活習慣の確立 ・安易に遅刻をさせない雰囲気をつくり、チャイムの鳴り始めて授業が始められる習慣を作る。	・遅刻が多い生徒には積極的に声掛けをして改善を促す。 ・チャイムの鳴り始めには授業準備が完了している状態を維持できるように支援する。 ・基礎テスト等を利用して、学習習慣を確立する。
	②	自ら考えて行動する態度の育成 ・日々の学校生活や行事等を通じて生徒一人一人が自ら考えて行動する態度を養う。	・日々の清掃活動から、自ら考えて行動する習慣をつけさせる。 ・球技大会や文化祭の準備から、各々が考えて行動する有用性を実感させる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目 ・協動的な活動を通して探究的な学びを深めるとともに、ICTを積極的に活用し、効率的・効果的な教育活動の実践を目指す。 ・進路を自分事として捉えられるよう、先を見据えたキャリア教育の充実を図る。 ・生徒の主体的な活動を一層推進し、主権者意識及び自己肯定感の高揚を図る。 ・全職員がいじめの兆候を見逃さず、各種機関を連携を図り、未然防止や早期対応に努める。 ・業務の適正化および他分野との連携による協同的な取り組みの構築を図るとともに、在任時間記録の状況結果等を活用し、教職員の適切なメンタルヘルス保持に努める。			